２０２７年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題　法律科目試験

（商　法）

次の（設例）を読んで、問（１）および問（２）に答えなさい。

（設例）

１．甲株式会社（以下「甲社」という。）は、取締役会・監査役設置会社であり、その定款には、株式の譲渡は取締役会の承認を要する旨の定めがあり、株券を発行する旨の定めはない。

２．甲社の発行済株式総数は１万株であり、Ａが５０００株、ＢとＣがそれぞれ２０００株、Ｄが１０００株を保有しており、以上の事実は全て甲社の株主名簿に記載されている。甲社の代表取締役はＡであり、代表権のない取締役はＢとＣである。

３．甲社では、事業拡大のための資本金額を積み増すために、令和８年春、Ａが新たな出資者となるＥを甲社株主として迎えることを発案し、取締役の３名全員が一堂に会して、Ｅを相応の持株比率を有する株主に迎えることに合意した。Ａから説明を受けた監査役Ｆも、Ｅを株主とすることについての取締役３名の合意に異議を唱えなかった。Ａの親族であるＤは、ＢやＣの協力を得て、将来甲社の事業承継を受けることに期待を持っていた。このため、甲社と関わりがなかったＥが甲社に出資して株主総会での発言権を得るという話を後から伝え聞き、Ｄは、これを快く思っていなかった。

４．令和８年５月２０日、Ａは、公正な払込金額である１株１万円で甲社株式２０００株をＥに対して割り当て、その払込期日を同年６月１日とすることを自ら決定し、Ｅとの間でこれを合意した。

５．また、相応の議決権比率を求めるＥの希望に応じるために、Ａは、自らが保有する甲社株式のうち１０００株をＥに対して譲渡することをＥとの間で合意し、Ｅは、Ａに対して、約定された代金の全額を支払った（以下「本件株式譲渡」という。）。

６．Ｅは、Ａとの間で合意した払込期日に、Ａとの間で合意した払込金額の半分に過ぎない１０００万円のみを甲社に対して払い込んだ。Ｅから、出資を払い込んだとのみ報告を受けたＡは、Ｅが２０００株の甲社株式を取得した旨を甲社の株主名簿に記載した（以下「本件株式発行」という。）。

問（１）　（配点：２５点）

本件株式譲渡により、Ｅは甲社の株主となるかを検討しなさい。

問（２）　（配点：２５点）

本件株式発行により、Ｅは甲社の株主となるかを検討しなさい。Ｄは、本件株式発行の効力を争うために、どのような訴訟を提起することが必要になるかを検討し、その訴訟において、Ｄが、どのような主張をなすべきかを説明しなさい。